

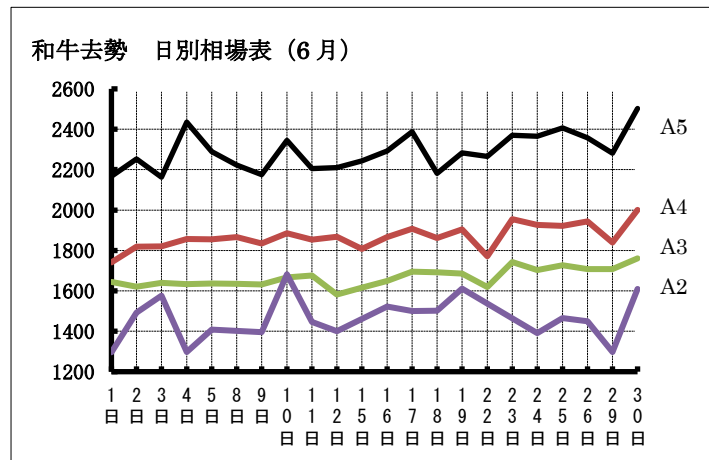
# 月刊しばうら

## 2020年7月号

### 牛肉営業部

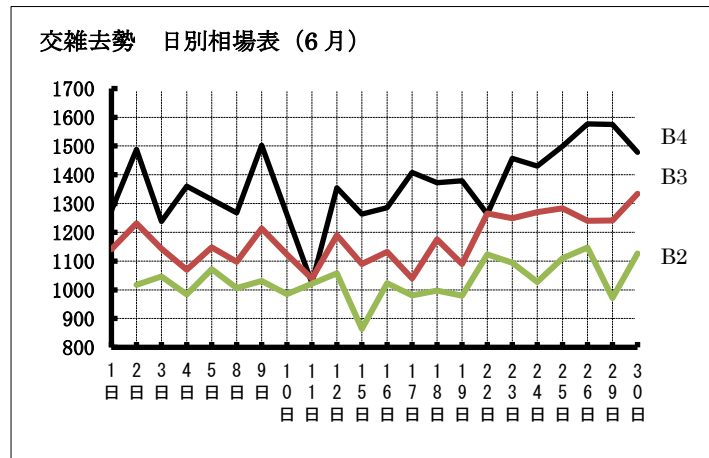
#### <6月の相場動向>

和牛去勢 A5 が前月比 67 円高の 2,303 円(前年同月比 467 円安)、A4 が同 43 円高の 1,878 円(同 553 円安)、A3 が同 53 円高の 1,671 円(同 564 円安)、A2 が同 42 円高の 1,505 円(同 457 円安)となり、交雑牛去勢は B4 が前月比 29 円安の 1,402 円(前年同月比 355 円安)、B3 が同 83 円安の 1,200 円(同 449 円安)、B2 が同 93 円安の 1,044 円(同 497 円安)、乳牛去勢は B2 で前月比 18 円安の 932 円(前年同月比 83 円安)となった。県外移動の自粛も解除となり、外食の営業再開に伴う需要の増加から和牛は月の後半にかけて緩やかに上昇した。一方、交雑牛は需要が和牛へシフトしたこともあり軟調な展開となった。



#### 和牛去勢 (月平均)

A5	2,303 円	(前年同月比 83.1%)	(前月比 103.0%)
A4	1,878 円	( " 77.3%)	( " 102.3%)
A3	1,671 円	( " 74.8%)	( " 103.3%)
A2	1,505 円	( " 76.7%)	( " 102.9%)



#### 交雑去勢 (月平均)

B4	1,402 円	(前年同月比 79.8%)	(前月比 98.0%)
B3	1,200 円	( " 72.8%)	( " 93.5%)
B2	1,044 円	( " 67.7%)	( " 91.8%)

#### 乳牛去勢 (月平均)

B3	上場なし		
B2	932 円	(前年同月比 91.8%)	(前月比 98.1%)

#### <7月の牛肉輸入量予測>

財務省の輸入通関実績による 5 月の牛肉輸入量は、前年比 3.0%増の 5 万 36 t と前年同月を上回った。チルドは同 11.0%減の 2 万 584 t、フローズンは 15.8%増の 2 万 9,452 t となった。チルドは新型コロナウイルスの影響で北米の減少が目立ち、フローズンは前年 5 月が少なかったことによる反動とみられる。農畜産業振興機構の予測による 7 月の牛肉輸入数量は、前年比 18.0%減の 5 万 1,300 t で、チルドは同 17.2%減の 2 万 2,700 t、フローズンは同 18.4%減の 2 万 8,600 t としている。

緊急事態宣言や県外移動の自粛の解除に伴い、外食需要の回復が期待される一方、国内在庫が高水準にあることや新型コロナウイルスの影響による北米の現地工場の減産により前年割れの輸入量となる見通し。

輸入牛肉通関量		5月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	10,431	10,263	101.6%
	米国	8,602	11,059	77.8%
	その他	1,551	1,798	86.3%
	合計	20,584	23,120	89.0%
フローズン	豪州	13,603	13,062	104.1%
	米国	10,049	8,504	118.2%
	その他	5,800	3,874	149.7%
	合計	29,452	25,440	115.8%

単位：t

出典：食肉速報

#### <7月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターの発表による 5 月末時点の全国飼養頭数は 390 万 8,097 頭（前年同月比 1.5%増）と微増で、前月比でも約 1 千頭の増加となった。黒毛和種は 170 万 8,788 頭で前年同月比では 3.1%の増、交雑種は 50 万 3,295 頭で同 1.7%の増となった。ホルスタイン種雄（去勢）は前年比で 4.7%減の 25 万 3,970 頭、雌は 0.5%増の 136 万 1,177 頭となった。また、牛飼養施設数は 4 万 3,721 カ所（前年同月比 3.3%減）で、1 カ所あたりの飼養頭数は全品種平均で 89.4 頭となった。

農畜産業振興機構による 7 月の全国出荷頭数予測では、前年比 3.2%減の 9 万 2,700 頭で、品種別にみると和牛が同 100.0%の 4 万 4,100 頭、交雑種は同 8.5%減の 1 万 9,600 頭、乳用種は同 4.7%減の 2 万 7,400 頭としている。和牛は前年並みとなったものの、交雑種、乳用種は前年を下回る予測となっている。東京食肉市場の 7 月と畜頭数は 8,000 頭を予定している。

#### <7月の牛枝肉相場見通し>

7 月は梅雨明けの時期にもよるが、月後半には 4 連休もあり下旬にかけて相場の回復に期待したい。しかしながら、7 月に入り都内の新型コロナウイルス感染者数の増加を受けて消費者の不安心理は根強く、相場の急回復は見込みにくい。輸出数量や接待需要の回復が相場上昇の鍵になると思われる。和牛は外食需要の回復が進めば上昇も見込めるが、交雑は引き合いも鈍く、もちあいから軟調な展開が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,300～2,400	B4	1,400～1,500
A4	2,000～2,100	B3	1,200～1,300
A3	1,800～1,900	B2	1,000～1,100
A2	1,550～1,650		
乳牛去勢			
B3	1,000～1,050		
B2	900～950		

### 豚肉営業部

5 月の全国と畜頭数は、前年同月比 4.9%減の 128 万 9,659 頭と前年同月より減少した。また、5 月の豚肉通関数量は 7 万 9,936t（前年同月比 5.4%減）と前年同月を下回り前月比でも 2 割を超える減少となった。新型コロナウイルスが世界的に万延し、北米をはじめ現地工場の稼働停止により、生産減となった。内訳はチルドが 3 万 3,506 t（4.3%減）、フローズンは 4 万 6,430t（6.1%減）となっている。

2019-2020 年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
5	75,254	84,396	21,643	184,963	76,085	66,655
6	67,048	76,246	23,332	183,952	65,290	77,257
7	74,899	83,315	21,828	192,531	76,348	76,736
8	67,745	84,982	20,615	200,018	68,891	77,385
9	68,819	78,125	20,351	197,854	69,025	80,399
10	79,112	83,940	20,128	198,840	79,247	82,954
11	77,534	82,715	21,804	191,175	75,817	90,380
12	80,884	72,264	20,806	181,469	81,783	81,970
1	80,864	72,280	21,474	187,738	80,150	66,011
2	73,425	66,987	23,077	185,042	71,714	69,683
3	79,535	67,628	25,062	185,075	77,478	67,595
4	80,239	101,568	23,124	200,821	82,085	85,822
5	71,318	79,864	20,858	214,884	73,523	65,801
比	95%	95%	96%	116%	97%	99%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t、%

5月豚肉通関実績						単位：t、%		
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比			
アメリカ	17,361	95.0	デンマーク	5,601	59.4			
カナダ	15,197	96.2	スペイン	10,158	104.1			
メキシコ	948	101.3	メキシコ	9,031	106.8			
			アメリカ	5,009	103.8			
			カナダ	3,629	115.9			
合計	33,506	95.7		46,430	93.9			

#### <6月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	56,300	627	570	548
2日	62,800	639	630	726
3日	57,900	658	625	554
4日	62,100	624	590	636
5日	55,500	591	572	789
8日	57,100	581	550	548
9日	60,600	609	575	863
平均	58,900/日			666/日

全国的に出荷頭数は減少傾向となっており、全国と畜頭数は 6 万頭を割り込む日もみられ、相場は高値展開となった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	57,600	582	560	582
11日	63,800	574	553	639
12日	57,000	574	544	836
15日	58,800	593	554	532
16日	62,100	614	597	870
17日	56,400	593	565	567
18日	62,800	610	592	603
19日	58,200	595	561	825
平均	59,587/日			681/日

枝肉相場は底堅い展開が続いたが、全体的な荷動きは鈍ってきた。特にロイン系については引き合いが弱まり荷余り感もあり投げられるケースもでてきた。一方学校給食の再開もありウデやモモなどのスソ物については堅調な動きとなった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	61,800	637	616	535
23日	61,300	643	627	822
24日	60,700	652	633	598
25日	62,600	676	666	682
26日	56,200	689	673	826
29日	61,700	679	668	588
30日	62,700	700	676	958
平均	61,000/日			715/日

都道府県をまたいでの移動制限が解除され、観光地などでも人の姿がみられるようになり外食需要も徐々に回復している中、相場は上昇傾向となり 30 日の上物価格が 700 円となった。

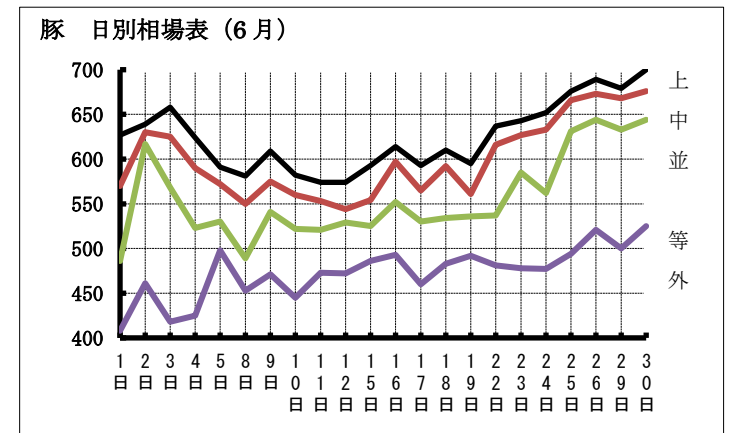
#### <7月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による 7 月の肉豚出荷予測では 129 万頭（前年比 95%）と予測している。当市場の 7 月集荷予定頭数は 1 万 6,500 頭、1 日あたりでは約 785 頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると 7 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 6 万 9,700t（同 81.7%）、内訳はチルドが 2 万 9,900t（同 83.1%）、フローズンは 3 万 9,800t（同 80.7%）と予測。チルドは、新型コロナウイルスの影響による北米の現地工場の稼働停止に伴う生産減等から前年同月を大幅に下回ると予測する。なお 3 ヶ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。フローズンも新型コロナウイルスの影響による生産減及び現地相場の高騰に加え、国内の在庫量が高い水準にあることから、前年同月を大幅に下回ると予測する。なお 3 ヶ月平均でも、前年同期を大幅に下回ると予測する。

7 月は例年末端需要が梅雨によって盛り上がらないことに加え、20 日以降は学校給食も止まることでスソ物の動きにも影響を与え全体的な荷動きが鈍る時期となる。しかし今年は地域や学校によっては夏休みの短縮もあり、需要動向の予想が難しい。全国的に今後は出荷頭数が減少傾向となることが予想され、輸入物の供給量や価格上昇への懸念から国産物で手当する傾向となり、今後の荷動きによっては相場への影響を受けそうだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は 600 円前後、中物平均価格 580 円前後の展開と予測する。



**東京都港区港南2-7-19**  
**東京食肉市場株式会社**  
**TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127**